

白ネギの7月どり作型に適する品種と大苗育苗

1 はじめに

白ネギは、福井県全域で生産振興されている主力品目です。現在、県内産の7月の市場出荷は少なく、市場から出荷を強く求められています。雪解け後3月下旬～4月上旬稚苗定植では収穫の7月までに十分な生育量の確保ができません。そこで、福井県においても7月に安定的に収量を確保できるような品種と大苗育苗方法を紹介します。

2 栽培技術

(1) 7月どりに適する品種

秋に播種することで、定植時期の3月下旬～4月上旬に葉鞘径が3.5mm以上の大苗を育成することができます。大苗を定植し、7月どりをする作型は、収量およびL以上本数が多いことから、「夏扇パワー」が適しています(表1)。

表1 品種が苗の生育および収量に及ぼす影響

播種日 (10/16)	苗質調査 (3/29)		収穫調査 (7/5)					
	草丈 (cm)	葉鞘径 (mm)	可販収量 (kg/10a)	抽苔率 (%)	10a当たりの規格別本数			
					2L	L	M	S
ホワイトスター	27.0	3.7	2,878	0	5,106 (24%)	16,594 (76%)	0 (0%)	0 (0%)
夏扇パワー	28.4	3.7	3,589	0	9,164 (36%)	13,745 (55%)	2,291 (9%)	0 (0%)

(2) 夏扇パワーの播種時期、播種粒数

10月中旬の2粒播種が葉鞘径3.5mm以上の大苗を育成することができ、収量およびL以上本数が多いことから、7月どり作型に適しています(表2、表3)。

表2 播種時期・播種粒数が苗の生育に及ぼす影響(3/29 調査)

播種日	播種粒数	草丈 (cm)	葉鞘径 (mm)
10/16	2粒	28.4	3.7
11/1	2粒	24.3	3.3
11/15	2粒	22.6	2.7

表3 播種時期・播種粒数が収量に及ぼす影響 (3/30 定植、7/5 収穫)

播種日	播種粒数	可販収量 (kg/10a)	抽苔率 (%)	10a当たりの規格別本数			
				2L	L	M	S
10/16	2粒	3,589	0	9,164 (36%)	13,745 (55%)	2,291 (9%)	0 (0%)
11/1	2粒	2,836	0	5,711 (26%)	12,563 (58%)	3,426 (16%)	0 (0%)
11/15	2粒	3,036	0	3,465 (15%)	18,480 (80%)	1,155 (5%)	0 (0%)

〔技術の効果〕

白ネギの作型において、品種と大苗育苗の組合せをすることで、7月どり白ネギの収量およびL以上率が向上し、作期拡大および安定的な収量確保に繋がると期待されます。

(農試 園芸研究センター 野菜研究 G)